

| 教育目標 | | 自ら学び、未来を拓く力を育む 心豊かな生徒の育成 | | | | | | |
|---------------|----------------------|--|---|--|-------|--|--|--|
| 重点目標 | | 東中しぐさ(心)の確立 → 和文化と心の文化の融合 | | | | | | |
| 項目 | 重点項目 | 具体的施策 | 達成目標 | 自己評価 | 成果と課題 | 改善策 | 学校関係者評価 | |
| 確かな学力の向上 | 基礎・基本の徹底 確かな学力の向上 | ①基礎的、基本的な知識・技能を習得する ②観点別の学習の成果を分析し、効果的な学力向上策を実施する | ①各教科で観点別評価についての説明を行い、適切に評価することで学習意欲を高める。 ②弱点項目について、質問しやすい声掛けや環境づくりをする。 | ①学習の成果を適切に評価されているという回答が80%以上になる。 ②弱点項目の内容などに対する質問がしやすいという回答が65%以上になる。 | A | 「学習の成果について適切に評価してくれる」という項目については、生徒は去年に比べて3%向上し、肯定的評価が95%で、保護者はほぼ変わらず89%であり、目標は達成できた。「先生に質問しやすい」という項目については、生徒は去年より8%向上し、肯定的評価が70%で、目標は達成できた。しかし、生徒の否定的評価も30%と高く、生徒が質問しやすくする手立てが必要である。 | 「学習の成果を適切に評価してくれる」については、基礎・基本の徹底を行うために、小テストや課題、実技を行わせるなど、できていない箇所を丁寧に説明することを継続していきたい。また、問題等でできていないところを授業やテスト返却の際に、より意識して明確にしていく。さらに、シラバスを活用し、生徒・保護者に対して、各教科の評価方法について周知徹底を行っていく。「先生に質問しにくい」とについては、質問に来ることを待つのではなく、教師側から声をかけるなど質問しやすい雰囲気をつくる。 | 先生が元気で楽しく授業を行って、生徒の学習意欲の向上に努めて、確かな学力の向上に力を入れてほしい。「今日のねらい」を明確にし、生徒に毎時間の振り返りを行って確かな学力の向上に取り組んでほしい。 |
| | 学習習慣の定着 読書活動の推進 | ①家庭学習を充実させる ②朝読書を通して読書活動を充実させる | ①1日2時間の家庭学習を達成させる ②全員が集中して10分間の朝読書を行うよう指導する。 | ①「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」という回答が、保護者、生徒ともに80%以上になる。 ②朝読書の充実のため、図書委員会を活用して学級貸出を充実させ、図書館利用増加へつなげる。 | B | ①「家庭学習のための宿題が適切に出されている。」と回答した生徒は86%と目標を達成している。しかし、保護者は72%と目標に達成していない。原因の一つとして、教師回答の「生徒に学習習慣および学力の定着のための適切な宿題を出している。」という項目で、前年度より6%減少していることから、出された宿題が学力定着に結びついていないことが考えられる。 ②読書活動の推進では学校全体での朝読書の取り組み、図書便りを通じての図書館司書の働きかけから、前年度よりも5%上昇し、89%と九割の生徒が読書活動の充実を感じた結果となった。コロナ禍の制限が緩和され、ボランティアなど協力を得たことが図書館利用の向上に繋がったと考えられる。 | ①家庭学習の充実ひいては基礎学力向上のため、東中生につけさせたい力を教科別、学年別で年度当初に検討し、計画的に課題を出す。その際には、ミライシードなどのICTの活用を積極的に活用し、学力の定着を図る。 ②図書館を利用する機会がICTの普及により減少していくと予想される。そのため、図書館ならではの魅力を図書委員やライブラリーサポーター、司書と連携し、発信していく。 | Aidリルを活用するなど家庭学習への定着を図ってほしい。スクールタクトを活用し、子ども同士が多くの情報を共有できればよいのではないかと。 |
| | 指導方法の工夫改善 言語活動の充実 | ①ICT機器を活用した授業改善を行う ②授業におけるグループワークなどの主体的・対話的な活動の実施 | ①タブレットや電子黒板、実物投影機等を活用した授業改善に努める。 ②各教科において1分間スピーチなど、生徒の発言の場を設定したり、グループワークやタブレットの活用した授業を実施する。 | ①全教員がICT機器を活用できるようにする。 ②生徒アンケートの回答において、「先生は教え方にいろいろ工夫している」、「授業はわかりやすく楽しい」の割合が85%になる。 ③グループワークの実施やタブレットの活用し生徒の考えを引き出す工夫に努める。 | B | ①教職員アンケートで「よく分かる授業づくり」を実践している教職員は、先年に比べると全体的に微増している。それは1人1台タブレットが導入されたことによりICT機器を活用した教材研究を十分に行ってきたからだと考えられる。その反面、実践している教員が増えているが、全くできていない回答した教員が3%であったことから教員のICTを使用するという意識が向上しつつも、技術的なことが身についておらず、使用せずに授業を行っていると思われる。②「よくわかる授業づくり」では教師側も様々な工夫をしており、生徒にも伝わっているが、授業がわかりやすく楽しいと感じている生徒は約84%程度である。また、目標の85%にはまだ届いていないのが現状ではあるが、年々増加傾向にあるので、達成していきたい。③教科によっては、グループワークを取り入れて生徒の考えを引き出す工夫をしている。 | ①授業改善のためのICT活用法について、継続的にタブレット等で新しいものが導入されていることで、学校としてや教科ごとの研修及び教職員自身が自主的に研究を行う。②授業研究を行い、授業方法について検討した上で、教員間で、より授業研究ができるような公開授業を行う。③主体的・対話的な活動を通して生徒の言語活動の時間を確保し、充実を図る。 | 保護者アンケートの「お子さんは授業がわかりやすいといっている」の評価が低く、教員との意識のずれが気になります。よくわかる授業作りに今後も一層取り組んで欲しい。タブレットをどう使用するかを含めて良い資料提示を授業で実践してほしい。 |
| 豊かな心と健やかな体の育成 | 不登校への対応 | 不登校生徒数を増やさない。 | 不登校生徒を出さないための、伊丹市共通実践事項を実行する。学年の生徒指導の分掌の中で問題行動と不登校対応を分けることで教職員の負担を軽減する。 | ①不登校生徒数が前年比90%以下を目指す。 ②生徒アンケート7・8の項目、保護者アンケート5・6の項目について肯定的評価が80%以上になる。 | C | ①昨年12月の不登校の数は38名、今年は26名(昨年比68%)で目標は達成できた。担任の先生を中心に、家庭訪問や放課後登校、別室登校などさまざまな方法で関わりを持つようになっている。しかし、欠席数が多い生徒は、増加傾向にある。 ②アンケート4項目中3項目が達成できていない。特に保護者アンケートの「お子さんのことで相談できる教職員がいる」は75%で一番低かった。 | 不登校生に対して、一人一人に合わせた対策を行い、各関係機関と連携を取りながら、段階的に集団生活に戻れる手立てを取る。日頃から生徒への教育相談や保護者との連絡を積極的にを行い、人間関係の構築や悩み事の早期発見と解決に努める。 | 保護者アンケート項目で「お子さんのことで相談できる教職員がいる」は75%で一番低かったため、日頃から保護者との連携を密にし、相談しやすい関係を築いてほしい。地域が応援できる体制を考えていきたい。 |
| | 問題行動への対応 | 問題行動を起こさせない指導体制を確立する | 「みそあじ」を徹底し、問題行動を未然に防ぐ。 | 「ルールやマナーを教えてもらっている」と回答する生徒が90%以上を維持する。 | A | 「ルールやマナーについてしっかり教えてもらっている」という項目に肯定的な回答をした生徒・保護者が90%を越えており、昨年とおおむね変わっていない。「学校は自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてもらっている」という項目に肯定的な回答をした生徒は引き続き85%を上回ったが、保護者は前年を下回った。 | 「みそあじ」を徹底すると共に、生徒一人一人に対するきめ細やかな指導を心掛けることを継続する。また、教職員も子供たちの手本として、「みそあじ」に対する意識を高め、実践・指導していきたい。さらに、学年内や学校内で連携を図り、組織的かつ迅速に対応できるように体制づくりを継続する。周知方法を工夫し、保護者からの理解を得られるように努める。 | あいさつをする生徒が増えており良い雰囲気になってきているのでさらに「みそあじ」を徹底していただきたい。校則の見直しやカバンの変更など積極的に検討してほしい。 |
| | 道徳教育の推進 | ①豊かな心を育てる道徳教育の充実をはかる ②無言清掃を通して「五つ心」を育てる | ①担任だけでなく全教員の道徳教育の実践力の向上をはかる。 ②5つ心を意識した教材を扱う場面を設定する | ①「自他を大切にすることを教えてもらっている」と回答する生徒、保護者を80%以上にする。 ②各学年ごとに、オープンスクールで公開授業を行う。 | A | 生徒、保護者ともにアンケートの「自他を大切にすることを教えてもらっている」という項目が昨年度とほぼ同じであるが、保護者に関しては若干下がっている。授業力向上のためにローテーション授業の取り組みができたが、フィードバックの仕方に課題が残った。 | ローテーション授業では、今後も継続して資料や指導案を検討する時間を確保する。ローテーション授業の後に、授業の振り返りをする機会を設け、全体で共有する。また、授業力向上のために校内研修をさらに充実させる。学校での道徳の取り組みを知ってもらう取り組みが必要。オープンスクールで道徳授業を実施する。 | 道徳のローテーション授業は今後も取り組みを継続し、生徒の心の成長に繋げてほしい。 |
| | 健やかな体づくりの推進 | ①健康管理の啓発を行う ②健全な食習慣の推進をはかる | ①欠席調査を行うことで、感染症の拡大防止に努める。 ②ほけんだよりを通して、健康管理や健全な食習慣の啓発に努める。 ③保健委員会を中心に健康管理の啓発と食習慣の意識を高め、自己の健康管理を行う。 | ①感染症の集団感染防止対策を、年間を通して行う。 ②ほけんだよりを月1回以上発行する。 ③保健委員会を中心に、給食に関する整備やマナー等、食育の意識を高める。また、保健委員会と連携することで、生徒自身で感染症予防を意識をした行動をとれるようにする。 | B | ①感染症対策 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、手洗い・うがい等の啓発や、教室の換気を行う取り組みを強化した。その結果、学校内での感染拡大は見られなかった。 ②ほけんだよりを毎月発行し、ホームページに掲載することで健康管理の啓発に努めた。 ③保健委員会をとの連携を強化することで、給食や感染予防についてクラスへ啓発することができた。また、給食準備中のヒヤリハット事例や小さな事故を防ぐことができた。 ④養護教諭と連携することで、食に対する取り組みや食物アレルギー対策に尽力した。 ⑤給食の残食の課題は残っているので、来年度も引き続き生徒や教職員とも食の充実を図り、その意識を高めることに努める。 | ①感染症予防対策 ・感染症の意識を高めることが、規則正しい生活習慣につながることで、引き続きほけんだよりや保健委員会とも連携を図り啓発に努める。 ・登校前の健康観察を忘れる生徒が後を絶たないなど、新型コロナウイルス感染症予防対策がおろそかになっている。そこで、行事やほけんだよりを通して、さらなる啓発に努めると同時に、保健委員への指導を強化し、クラス内での予防に対する意識を高めるように取り組む。また、スクールタクトなどを利用した健康観察に変更を希望する。 ・3学期より給食での熟食が緩和されたので、今後の感染動向を見守る必要がある。 ②給食配膳時の事故予防 給食時のヒヤリハット事例や小さな事故を減少させることができた。来年度も引き続き、ヒヤリハット事例などがあつたときには、職員朝礼や保健委員会で報告し、生徒や教職員の事故予防の意識を高めたい。 ③学校保健委員会の活用 ・生徒一人一人が栄養や健康のことを考えて食べることができるよう、養護教諭との連携を進め、栄養面の知識を深められるよう、食に関する取り組みを強化していきたい。 ・学校保健委員会を活用することで、PTAとの連携を深め、家庭への啓発に努めたい。 | 健康観察や給食指導を含めて、生徒のすこやかな体作りと体力向上に取り組んでほしい。 |

| | | | | | | | | |
|--|----------------------------|--|---|--|---|---|--|--|
| 信頼される開かれた学校づくり | 学校情報の積極的な発信 | 積極的に学校情報を地域、保護者、生徒に発信する | ①学校だよりを毎月発行する。 ②学校ホームページを定期的に更新し、学校情報を積極的に発信する。 ③「しつこ！東中」を有効的に活用する。 ④メール配信を用いて積極的に情報を発信する。 | ①学校だよりを毎月発行する。 ②学校のホームページを定期的に更新する。 ③保護者アンケートにおいて、「学校は保護者や地域の願いに応えている」「学校は学校・学年便りやメール配信、ホームページ等を通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」の回答が90%以上になる。 | B | 学校だよりを毎月発行し、ホームページも頻繁に更新することができた。メール配信を積極的に活用し、丁寧に情報発信することができた。保護者アンケートの「学校はメール配信、ホームページ等を通じて学校や子どもの様子などをわかりやすく伝えている」という項目では、肯定的な意見が86%であり、目標を達成することができなかった。改善が必要である。また、「学校は保護者や地域の願いに応えている」については82%であり、こちらも改善を要する。 | 家庭訪問や保護者連絡などを小まめにすることで、保護者の願いに応えることができるようにしていく。また、ホームページやメール配信だけでなく、学級通信等で、学校の様子のみでなく、クラスの様子も伝えられるようにする。学校運営協議会やファミリーサポーターズで出た意見をくみとり、地域の願いを踏まえた教育活動の向上に努める。 | 今後もさらに学校の様子を様々な方法で発信して、保護者や地域の願いに応えてほしい。学校評価の取り方は今後もwebでいいのではないかと。 |
| | 学校運営への市民参画の推進 | 東中ファミリーサポーターズ・PTAとの連携強化をはかる | 「サタスタ東」や「図書活動」「スマイル活動」などへの協力を生徒・PTA・地域に呼びかける。 | ①毎週土曜日の「サタスタ東」の開催 ②ボランティアスタッフの登録を呼びかける。 ③保護者アンケートで「学校はサタスタ東や図書活動などの取り組みを通して、地域や保護者との連携のもと積極的な教育活動を行っている」と回答した割合が80%以上になる。 | B | ①については、開催しており、一定数の生徒が参加している。 ②については、ボランティアスタッフの登録を呼びかけている。 ③については、肯定的な回答は90%と目標値を大きく超えている。 | ①登録人数の目標枠は定めないが、生徒・保護者に対して、引き続き参加を募る。 ②登録人数の目標枠は定めないが、メール配信等を利用した広報活動を行う。 ③引き続き、学校が地域や保護者との連携のもと積極的な取り組みを行っていることを周知する。 | 教職員のアンケート項目の「地域や保護者とのコミュニケーションを積極的に図っている」が79%と低かったので引き続き積極的な取り組みを期待している。先生を学校運営協議会のメンバーに入れてコミュニケーションを図っていくことも検討いただきたい。 |
| | 安心な学校づくり | 生徒・教職員・保護者の危機管理意識の向上を図る | ①1学期、3学期に1回避難訓練及び防災手帳を活用した安全教育を行う。 ②教職員による登下校指導の充実を図る。 ③全校集会等で「施設・設備の安全な使用方法」の説明等を行う。 ④交通安全や事故防止等に関わる資料を生徒・保護者に配付する。 | 当該項目における生徒・保護者・教職員の肯定的意見を今後も85%以上にする。 | A | 生徒アンケートの肯定的意見は85%以上である。また、教職員アンケートの肯定的意見も90%を超えている。保護者アンケートの肯定的意見は77%であった。今年度は新型コロナウイルスの影響がありながらも避難訓練や研修などを実施することができた。特に避難訓練や防災教育等を通して、生徒の危機管理意識を向上させた。「交通事故や事故防止」のための指導を警察の協力のもと行い、生徒には勿論のこと、保護者にもその内容を伝えることができた。加えて、救急対応においても、消防署の協力で行った研修で教職員の更なる意識の向上に取り組むことができた。 | ①1学期、3学期に1回避難訓練及び防災手帳を活用した安全教育を行う。 ②教職員による登下校指導の充実を図る。 ③全校集会等で「施設・設備の安全な使用方法」の説明等を行う。 ④交通安全や事故防止等に関わる取り組みを生徒・保護者に情報発信する。 検討事項 家庭環境調査票か緊急連絡票の中に「避難場所」の項目を新たに設け、保護者と生徒が防災に対する意識を高めるきっかけとする。 | 廊下がすっきりとしたものが少なく、きれいに掃除ができていない。生徒の事故防止にもつながっているため、今後も安心して学校生活が過ごせるようにしてほしい。 |
| 各学校で特に取り組みたい課題 | キャリア教育の推進 | ①3年間を見通したキャリア教育を推進する ②小中高連携を推進する(コロナの状況に応じて) ③ボランティア活動を実施する(コロナ状況に応じて) | ①キャリア学習ノートを活用した進路指導を行う。 ②小中合同の行事を行う。オープンハイスクールへの参加を呼びかける。 ③東中地域活性隊、夏休みの清掃活動を呼びかける。(コロナの状況に応じて) | ①計画的にキャリア学習ノートを活用する。 ②小中の十分な交流をはかる。(コロナ状況に応じて) ③生徒の「学校は、ボランティア活動などの情報を提供している」・保護者の「学校は、ボランティア活動の情報を子どもに提供している」の学校評価アンケートの肯定的意見を80%以上にする。 | A | 進路の意識は3年生が一番高いが、1、2年生も普段の授業の中や学年通信、下級生対象の進路説明会などにより進路への意識が高まってきたように思われる。また、コロナ禍における規制も無くなりつつあることで、東中活性隊も活動ができるようになり、ボランティア活動への意識が高まりつつある。課題としては、1年生時における進路意識の向上と東中活性隊の活動内容の周知などがもう少し行われれば、更なる成長が見込まれると思う。 | 1年生時の進路意識は定期的に生徒に情報提供を行い、地域に、どのような高等学校があるのか学校調べなどで意識を高めていきたい。ボランティア活動については、全校集会時における活動報告や活動通信などの発行により、活動が生徒や保護者に伝わるように努めていく。また一般の生徒には、道徳の授業などを通して奉仕的精神について更なる意識向上に繋げていきたい。 | トライやるなどの体験活動やボランティア活動(東中地域活性隊)をとおり、キャリア教育に繋げてほしい。 |
| | 特別支援教育の推進 | ①個別の指導計画を作成する ②校内委員会を開催する | ①教科担当・支援員・特別支援学級担任・及び介助員の意見を校内委員会に上げ、協議し職員へ周知する。 ②校内委員会は時間割に組み込み、原則週一回実施する。また、必要に応じて随時ケース会議を開く。 | ①生徒アンケート18「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」と回答する数値が90%以上になる。 ②教師アンケート26「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携がはかられている」の肯定的回答が90%以上になる。 | A | ①生徒アンケート18「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」と回答する数値が90%以上になる。②教師アンケート26「校内委員会の内容に基づき、コーディネーター、支援員の連携がはかられている」の肯定的回答が90%以上になる。③個別の指導計画の作成や、校内委員会の運営が定着したことによる成果だと考えられる。 | ・特別支援や合理的配慮についての共通理解を進めていくための研修を取り入れる。 ・特別支援の対応や合理的配慮の校内での事例の記録を蓄積し、学年会議や職員会議の場を活用して共通理解を図る。 ・校内委員会の定期的な開催を継続し、学年問わず目下の特別支援の課題に対して対応できるようにしていく。 ・個別の指導計画を作成し、職員への周知を図る。 ・生徒の頑張りや伸びているところなど、プラスの情報を懇談時に限らず、積極的に保護者に伝える。 | 合理的配慮やインクルーシブの視点に立った特別支援教育の充実を図り、校内での情報提供を密に図ってほしい。 |
| | 子どもたちの一人ひとりの個性や能力に応じた教育の推進 | ①Q-Uを活用したバランスのとれた集団づくりを行う ②学級・学年でのリーダー育成を行う ③礼儀と規律ある部活動の推進をはかる | ①年2回Q-Uを実施し、学級の現状を把握する。 ②リーダー研修会や専門委員会を定期的に行う。 ③部活動集会を実施する。 | ①②③生徒アンケート「学校は学校行事に取り組めるように教えてくれる」の95%は現状維持し、「先生は、一人ひとりの状況に応じたきめ細やかな指導をしている」に回答する数値が90%以上になる。 | B | 前年度と同様に年2回Q-Uを実施し、学年で分析し共有できたが、全教員が活用できていない。行事は新型コロナウイルス蔓延前に戻りつつあるが、リーダー研修会や部活動集会ができなかったりしたことで、リーダーを育成するにはまだ少し時間が必要である。また、前年度と変わらず高い値で現状維持した項目や数値が上昇したものも見られた。引き続き、個別で声をかけたり、クラス内での呼びかけを続けていく必要がある。課題は、前述のとおりQ-Uの結果の把握と、丁寧な指導を図っていくことである。 | 支援が必要な生徒は、担任・副担任問わず、教科担任含めて向き合う時間を増やしたり関わり方の工夫をする。生徒自身が主体的により良い学校づくりができるよう、専門委員会の運営方法や、グレードアップ週間の内容について、生徒会が中心となって考えようと、生徒会活動の見える化を図る。また、個々の生徒に関わる時間を作り、ひとり一人に役割を与え、それぞれが活躍できる教育の推進を図る。 | 教員がもっと生徒と向き合い時間を作ってほしい。生徒には学年をこえた教員との関係がもっと必要なのでは。 |
| | 安全で快適な学校園施設の整備 | ①無言清掃を徹底する ②教育機器の管理を行う ③教育施設・設備の整備を行う | ①時間いっぱい清掃に取り組む。 ②備品の点検を徹底し、正しく使用させる。 ③定期的な点検を行う。 | ①「学校が生活の場として、清潔で美しく整っている」の回答が90%以上を維持する。 ②③「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の回答が90%を維持する。 | A | ①学校は「施設、設備の安全で正しい使い方を教えてくれる」、「生活の場として、清潔で美しく整っている」、「清掃活動や環境美化に力を入れている」、「学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」への肯定的な回答が約90%に達しているが、2つ目の回答が多くみられる。教育環境に対する評価は高い。②不備があった際に改善までに時間を要する。 ③「図書室は使いやすい、よく利用している」については、去年より7%改善されているが、否定的な意見が引き続き60%を上回っている。 | ①教育施設・設備については、定期的な点検や使い方の指導を行い、引き続き良い環境が保てるように取り組んでいく。②不備があった際に迅速に対応できるよう整備体制を整えておく。 ③図書室については、訪れる回数が増やせるように、授業で活用するなど、使用する機会を設ける。 | 図書室をもっと利用できるよう工夫し、読書習慣の定着を図ってほしい。 |
| 学校関係者評価総括 学校教育目標の達成を意義のあるものにして取り組んで欲しい 次年度に向けた重点的な改善点 長欠生の個々の生徒への細かな対応と、学力向上に向けた授業改善を行い、体力向上も踏まえた「文武両道」を軸とした生徒の健全な育成を図っていく。 | | | | | | | | |

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った